県内の2026年度ＮＩＥ実践指定校（敬称略）

児童・生徒数は2026年４月現在

学校名	校長 (児童・生徒数)	担当教諭 代表者	テーマ
向山小 (熊本市)	田浦　武宏 (518人)	迫　洋輔	新聞を活用して言葉の力を伸ばしたり、実社会の実例を生かした教育実践を工夫したりして、教育活動の充実を目指す。様々な教科、教育活動における新聞を活用した教育実践の可能性を探りたい。
泗水小 (菊池市)	西野　浩史 (514人)	村上　紀子	児童が新聞を通して実社会や実生活に目を向け、自ら問いを立て、情報を収集し、多面的に考え、判断し、表現する力を育むことを目標とする。今年度は新聞を実際の学習活動に積極的に取り入れ、朝学習や各教科の授業で、新聞をどう活用すれば子どもたちの学びをより深められるのか探究し、効果的な活用方法を研究したい。
菊陽南小 (菊陽町)	工木圭吾郎 (125人)	庭月野　竜王	昨年度は朝の時間や家庭学習で新聞ワークシートを活用。修学旅行の事前学習では新聞を活用して情報収集を行い、記者の出前授業で新聞の割り付けや見出しの付け方を学んだ。今年度は、 新聞を学校生活や学習活動に取り入れながら、児童が新聞記事を読むことを通して、考えたことを書き、表現することに取り組みたい。
球磨中央高 (錦町)	赤峯　達雄 (293人)	濱口　豪	「生徒が正しい情報活用を身に付け、安全に生活できるよう成長をはかる」という目的を定め、毎週金曜朝の視読の時間に全生徒が同じ新聞記事を読み、自身の知識を確認し、考えを述べるアンケートを実施した。職員の授業における新聞活用について情報を収集し、授業に反映する材料とし、公開授業を実施した。今年度はさらに授業における新聞活用と取り組みの発信に努力する。
桜山小 (荒尾市)	北岡　誉久 (114人)	黒田敦之	主体的・対話的で深い学びを実現するため、荒尾市内の小中学校共通実践事項である「あらおベーシック」（教師主導の一斉指導から、児童主体の協働的で個別最適な学びへ転換するための学び方）に取り組んでいる。加えて、県からは新たな重点取組として、読解力向上に向けた「教科書を使いこなす」「学習用語を理解する」「読み取る力を高める」という３つの方向性が示されている。NIE実践の指定を受けることで、新聞記事等を効果的に活用し、読解力向上につながる授業づくりの在り方を更に追究していきたい。
大津小 (大津町)	村田　典子 (827人)	田中真梨子	新聞購読家庭の減少、子どもの生活へのYouTubeの浸透、スマホ使用の増加等により、活字に親しむ機会が減っている。積極的に紙の活字に親しむ場を保障し、デジタル社会の中で、あえて紙媒体の強みと魅力を再認識させたい。国語科だけに限定せず様々な教科における教材としての新聞活用や、コラム欄、社説等を活用した自主学習を考えている。学校全体で、読解力の向上に資する取組を進めたい。学年の廊下にミニ図書館をモデル的に設営して新聞や書物を置き、身近で気軽に活字に親しむ場づくりを試みる予定。
植木北中 (熊本市)	坂本　正二 (115人)	押川裕翔	『教師の「教えたい」を子ども主体の「学びたい」へ』を研究課題に設定し、生徒の、主体的 対話的で深い学びの実現を目指す。ICTと小中一貫教育を軸に、国語科のほか総合では、課題発見 解決学習を通して「子どもフォーラム」での発表を目指す。生徒の主体的 対話的で深い学びの充実に取り組む。
五木学園 (五木村)	白樫　明宜 (35人)	石原聡子	昨年度は、主権者教育、焼畑体験活動及び修学旅行等の各体験活動のまとめとして新聞作りを生徒一人一人が行い、ＮＩＥ推進協議会から出前授業及び生徒の新聞の添削等を行っていただいた。 本年度は生徒が新聞の読み方を知り、その読み方について話し合い活動を行うことにより、読解力や表現力を高めたい。